

保育者採用試験を通して見るピアノ指導のあり方

—岐阜愛知の特徴に着目して—

保坂恵美 (幼児音楽)

I 緒言

著者は東京・愛知・岐阜・徳島各地の保育者採用試験の実態をH9年調査し報告¹⁾した訳であるが、そこで岐阜・愛知における特徴としてピアノ実技試験が大きな比率を占めること、特に愛知では保育者に対する歌・ピアノや器楽合奏を含む音楽や造形等への期待が高いことを述べた。本研究では愛知岐阜といった東海地方における幼稚園保育園のピアノに対する捉えかたを明確にすると同時に採用試験におけるピアノ実技試験の実態を明らかにし今後の保育者養成とりわけピアノ指導に示唆を与えられればと考える。

II 調査の概要

1. 調査の対象

愛知県として名古屋市の私立幼稚園と私立保育園各50園(無作為抽出)、岐阜県として岐阜市を中心に隣接地域も含めて私立幼稚園と私立保育園各50園(無作為抽出)を対象に配票しアンケート調査を実施した。

2. 回収数及び回収率〈表1〉

表1. 回収数と回収率

地域	配表数			回収数			回収率		
	幼稚園	保育園	計	幼稚園	保育園	計	幼稚園	保育園	計
愛知	50	50	100	19	20	39	38%	40%	39%
岐阜	50	50	100	27	25	52	54%	50%	52%

3. 調査時期

平成9年11月1日現在の状況を調査した。

4. 調査内容

- ①ピアノ試験実施率
- ②ピアノに対する捉えかた
- ③ピアノに期待する能力
- ④ピアノ実技試験内容

5. 集計処理

Microsoft EXCEL Ver.5.0を使用

III 調査結果

①ピアノ試験実施率〈図1〉

就職試験として実技試験が実施されるのは愛知では幼稚園89%保育園70%(合計では79%)、岐阜では幼稚園81%保育園60%(合計では71%)であった。実技試験がある園のうちピアノ試験があるのは愛知では幼稚園94%保育園93%(合計では94%)、岐阜では幼稚園保育園とも100%であった。

結局園の全体数から見てピアノ試験の実施される割合は次のようになった。〈図1〉

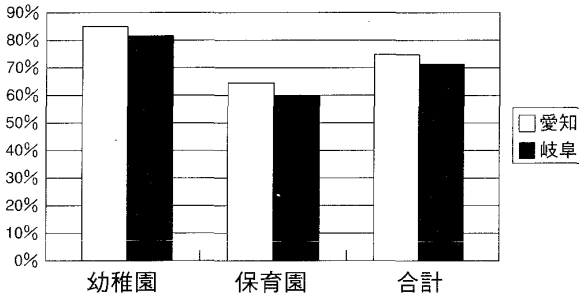


図1 ピアノ実技試験実施率

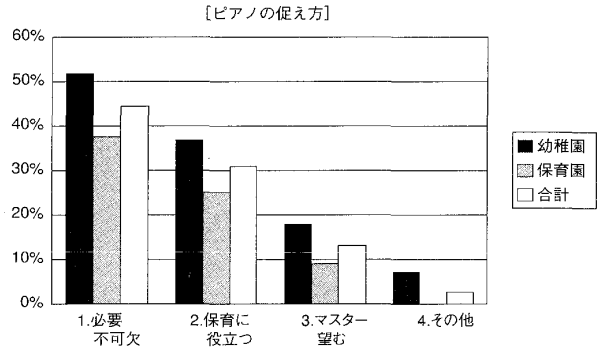


図2 ピアノ実技試験実施の理由

②ピアノに対する捉えかた

ピアノ試験を実施する理由を尋ねピアノをどのように捉えているかを調査した。

〈図2〉

- ピアノ試験を実施する理由（複数解答可）
 1. ピアノは保育者にとって必要不可欠な技術だから
 2. 必要不可欠ではないが、できた方が保育に役立つから
 3. 就職後に十分な練習時間が見込めないので、着任時からピアノ技術はマスターしてほしい
 4. その他

ここで徳島（今回の調査ではピアノ実技試験実施率を含めピアノに対する捉えかたが愛知岐阜に対極する東京と同タイプの県であった）における保育者の考えるピアノ必要度の調査ⁱⁱと比べてみたい。〈表2〉

表2. 保育者の考えるピアノ必要度（徳島県）

ピアノ必要度	幼稚園	保育園	合計
絶対必要	11 11%	13 16%	24 13%
かなり必要	29 28%	28 34%	57 31%
必要だがなくても保育可	52 50%	38 46%	90 49%
あまり必要ない	8 8%	2 2%	10 5%
必要ない	0 0%	0 0%	0 0%
無記入	3 3%	1 1%	4 2%
計	103 100%	82 100%	185 100%

図2の様に愛知岐阜ではピアノを必要不可欠と考える幼稚園が52%保育園が38%（合計では45%）となっていて、表2の徳島におけるピアノを絶対必要と考える割合（幼稚園が11%保育園が16%合計で13%）に比べて非常に高く、東海地方特に愛知岐阜においては他地域に比べピアノが絶対視される傾向が強いことがよく分かる。

③ピアノに期待する能力

次に幼稚園保育園ではピアノのどんな能力に期待しているかを見てみたい。〈図3. 4〉

- ピアノではどんな能力に期待するか上位から4番目まで順に番号を上げてもらった。
 1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる
 2. 童謡や子どもの好きな曲のレパートリーを多く持っている

3. 伴奏の楽譜がなくても、コードネームを見て簡単な伴奏がつけられる
4. 子どもの動きにあわせて、即興で簡単な伴奏ができる
5. 子どもの状態を把握しながら弾き語りができる
6. バイエル程度の基礎的なピアノ曲は弾くことができる
7. より高度なピアノ曲（ソナタアルバムなど）を弾くことができる
8. その他

図3図4を見てまず目につくのは、保育園の52%の園がピアノの能力として「6. バイエル程度の基礎的なピアノ曲が弾ける」をNo.1としてあげている事である。No.4までには65%の園がこの項目を選び「1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる」(No.1では21%、No.4まででは73%)について2番目となっているが、No.1としては特別高い支持率となっており「とにかくバイエルが弾けること」という感が強い。

それに対して幼稚園では「6. バイエル程度の基礎的なピアノ曲が弾ける」をNo.1としてあげている園は25%で「1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる」の25%と並び1位ではあるが1～6までの項目全体に解答がばらついていて保育園のようにバイエル偏重といった傾向はみられない。

全体としては「1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる」をNo.4までに上げた園が多く（幼稚園66%、保育園73%）、「2. 童謡や子どもの好きな曲のレパートリーを多く持っている」（幼稚園60%、保育園59%）とあわせてみると、季節行事の歌や童謡や子どもの好きな曲が一番要求が高い部分といえる。

次に「5. 子どもの状態を把握しながら弾き語りができる」が高く支持されておりNo.1 No.2までの支持率はあまり高くないがNo.4までには幼稚園では66%で1位の「1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる」と同じポイント、また保育園でもNo.4までには65%で1位の「1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる」(73%)に次いで2位となっている。

一方幼稚園のNo.2までの支持率では「4. 子どもの動きにあわせて、即興で簡単な伴奏ができる」が「2. 童謡や子どもの好きな曲のレパートリーを多く持っている」と同じ36%で「1. 季節や行事にあった曲を弾くことができる」(No.2までの支持率では44%)に次いで2位になっている事も特記に値する。

これらに比べ「3. 伴奏の楽譜がなくても、コードネームを見て簡単な伴奏がつけられ

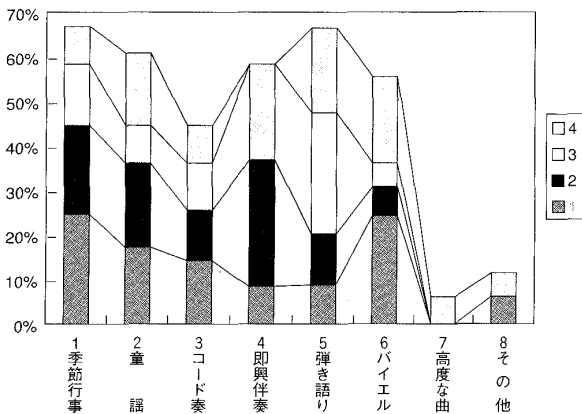


図3 ピアノに期待する能力(幼稚園)

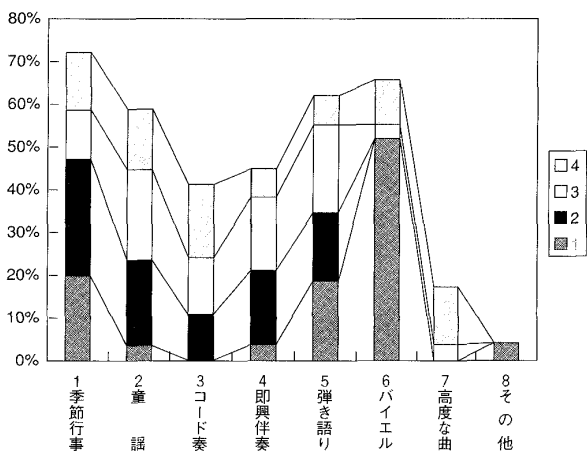


図4 ピアノに期待する能力(保育園)

る」は低いポイントとなりNo.4 までには幼稚園で44% 保育園でも41%であった。

またポイント的には低いが「7. より高度なピアノ曲 (ソナタアルバムなど) を弾くことができる」を期待する園がNo.1 No.2 までにはなかったとはいえ、No.4 までに幼稚園で6% 保育園では17%もあったことも注目される。

④ピアノ実技試験内容

次に具体的なピアノ試験の内容をみてみたい。自由記述で具体的なピアノ試験の内容を記入してもらい、次のように分類した。

1. 練習曲
2. バイエル
3. ツエルニー
4. 弾きうたい
5. マーチ
6. 名曲
7. どんな曲も可
8. その他・不明

以上の課題を自由曲・課題曲・初見奏として演奏する場合があったので幼稚園保育園別に集計した。〈図5〉〈図6〉

幼稚園保育園共自由曲つまり「~の中から自分の好きな曲を選んで弾く」という課題が多い事がわかる。

また自由曲にしる課題曲にしる弾きうたいが幼稚園で60% 保育園で68%と非常に高く、ピアノに期待する能力として「季節や行事の曲あるいは童謡こどもの好きな曲が弾ける」が一番高く望まれる事に対応した実技試験がなされている事がわかる。

一方幼稚園では「どんな曲でも自分の得意な曲を弾く」が32%で保育園の21%より高い割合になったのに対し、保育園では「バイエルから自由に選んで弾く」が36% (幼稚園では8%) 「バイエルから課題曲を弾く」と合わせて40%と (幼稚園では8%) やはりバイエルに偏る傾向が伺われる。

結局全体としては弾きうたいが高い割合で、次いでバイエルその他の練習曲がよく出題さ

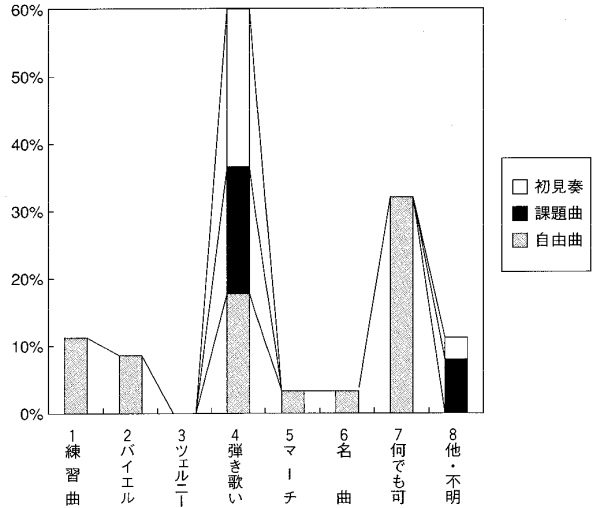


図5 ピアノ実技試験内容 (保育園)

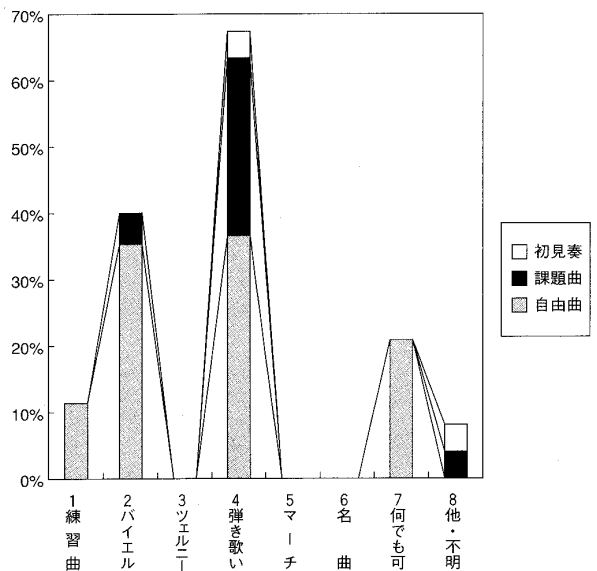


図6 ピアノ実技試験内容 (保育園)

表3. ピアノ実技試験 応用課題

	岐 阜	件 数	愛 知	件 数
幼 稚 園	簡単な移調	1	効果音（雷・雨・風・虫）	1
	伴奏付け	1	絵本をよむ前後に必要な曲 を弾く	1
	弾き歌い	1		
保 育 園	和音付け	1	なし	
	弾き歌い	5		

表4. 出題曲名と件数（50音順）

曲 の 種 類	番	曲 名	課 題 曲	初 見 曲
季節のうた	1	こぎつね		1
	2	このは	1	
	3	シャボン玉	1	
	4	たき火	2	2
	5	チューリップ	1	
	6	ちょうちょ	1	
	7	どんぐりころころ	4	
	8	トンボのめがね	4	2
	9	松ぼっくり	3	1
	10	水遊び		1
	11	もみじ		1
	12	雪のペンキやさん		1
いろいろな歌	1	雨降りくまのこ		1
	2	ありさんのおはなし	1	
	3	宇宙船のうた		1
	4	おつかいありさん		2
	5	おもちゃのマーチ		1
	6	さっちゃん		1
	7	世界中の子ども達が	1	
	8	ぞうさん		1
	9	七つの子		1
	10	森のくまさん		1
	11	山の音楽家		1
	12	夕焼けこやけ		1
生活の歌	1	お帰りのうた	1	
	2	おはようの歌	1	
	3	おべんとうのうた	1	
	4	お胸を張りましょ	1	
行事の歌	1	あわてんぼうのサンタクロース	1	
	2	うれしいひなまつり	1	
	3	鯉のぼり	2	
遊びうた	1	大きな栗の木の下で	2	2
	2	げんこつ山の狸さん		1
	3	手をたたきましょ	1	
その他	1	おいのりのうた	1	
	2	ののさま	1	
	3	仏歌	1	

れその他としては自分の好きな(得意な)曲を弾くという出題傾向となった。

応用課題は〈表3〉のようであった。件数は少ないが岐阜では音楽の技術的課題が多く、愛知では総合的・表現的にピアノを捉える傾向がある事がわかる。

次に自由記述で具体的に書かれた曲名を歌のジャンル別にまとめてみた。〈表4〉

③の結果どおり季節行事の歌・子どものいろいろな歌が多く出題されている。

Ⅳ 考察及びまとめ

保育においてピアノはあまり重要でないという言葉をよく聞くわりには、就職先から「とにかくピアノが弾ける人がほしい」という依頼をうける現実に疑問を感じていたがピアノを重視するのは岐阜愛知の地域の特徴であると明らかになった。当然実技試験の実施率も高く課題も高度になる傾向がある。

弾きうたいと練習曲が主な課題といえるが、指がまわるかどうかというより表現力があるかどうかをみてほしい。また「弾き語り」の要望が高いがピアノ初心者が弾き語りができるようになる事にはかなりの無理がある。(保育者を目指す学生にはピアノ初心者も常に1～2割りは存在する)それよりもむしろ簡単な和音やコードネームをしっかり理解できコードネーム奏や簡易伴奏ができるようにする事の方が保育者のピアノ能力として必要な事といえる。

曲を和音的(和声的)に理解し余裕を持ってピアノに臨めれば、子どもと音楽の楽しみを分かち合ったりその場に応じた保育の展開が可能になる。初心者こそ簡単な和音やコードネームをしっかり理解し譜読みを早くしたり楽譜から一歩退いて広い視野で曲を捉える力が必要となるのである。

そのためには和音やコードネームの系統的学習³⁾と人(うたや共演者)に合わせられる応用力を付ける事が大切であり、特に後者の

力は連弾をする事によって養う事が可能となる。連弾に関しては、その効用と具体的曲集等を述べた⁴⁾のでここでは省くが両手伴奏でコードネーム奏を行なえば初心者でも無理なく音楽を楽しめ、リズムバリエーション¹⁾によりさらに現代的感覚にもフィットする学生の右脳にうったえる演奏にもなる。ソナチネやクラシックの名曲といった高度な曲が弾ける事が応用力があるとは限らないのである。こつこつただ練習するというより、早く楽しく左脳で理解し右脳で感じて感性に触れる演奏をレッスンで体験させられればと思う。ここでレッスン生の感想を引用したい。

「ピアノが一番役に立ったと思ったのはやはり幼稚園実習の時でした。楽譜を持っていない時に突然“朝の歌”を弾く事になった時和音をやってよかったとすごく思いました。わたしはピアノを弾くのも、弾いている所をみるのも大好きで、これからも続けていきたいと思っています。」(中級生)

「食物とシェルターが我々にLifeを与えてくれるなら、ARTは我々に something to live for を与えてくれる。」⁵⁾ something to live for となれる楽しみをピアノを通して学生に伝えたいものである。

最後に本研究は全国保母養成協議会平成9年度ブロック研究(中部)の研究費助成を受けて行ないました。全国保母養成協議会会長 民秋 言先生・中部ブロック長 石崎 寛先生に感謝申し上げますとともに、御多忙な中めんどろなアンケートにご協力下さった幼稚園保育園の先生方に心よりお礼申し上げます。

V 資 料

● 調査対象の基礎データ

1. 園の総定員と総クラス数〈表5〉
2. 年齢別園児数と職員数 〈表6〉

表5. 園の総定員数と総クラス数

		A V E		M A X		M I N	
		総定員	総クラス数	総定員	総クラス数	総定員	総クラス数
愛 知	幼稚園	295.94	8.79	640	20	120	4
	保育園	147.00	7.55	300	13	45	4
岐 阜	幼稚園	257.67	8.70	600	15	38	3
	保育園	113.67	5.83	315	16	30	2

表6. 園児数・職員数

		園児数(人)	A V E	M A X	M I N	職員数(人)	A V E	M A X	M I N
愛 知	幼稚園	5歳児	87.53	240	30	20代	10.21	26	5
		4歳児	91.63	240	40	30代	1.00	5	0
		3歳児	79.16	211	23	40代	1.11	3	0
		2歳児	0.00	0	0	50代以上	1.16	4	0
		2歳未満児	0.00	0	0				
	保育園	5歳児	34.58	300	0	20代	10.79	33	0
		4歳児	34.26	13	0	30代	4.42	48	0
		3歳児	34.74	69	6	40代	3.00	15	0
		2歳児	21.58	74	10	50代以上	1.63	16	0
		2歳未満児	23.42	81	3				
岐 阜	幼稚園	5歳児	71.59	124	10	20代	7.50	13	3
		4歳児	73.15	140	12	30代	1.27	4	0
		3歳児	65.04	123	16	40代	1.42	5	0
		2歳児	0.00	0	0	50代以上	0.88	6	0
		2歳未満児	0.00	0	0				
	保育園	5歳児	27.84	90	0	20代	7.12	20	0
		4歳児	29.32	90	0	30代	2.92	9	0
		3歳児	32.60	90	0	40代	2.48	11	0
		2歳児	11.54	26	0	50代以上	1.84	5	0
		2歳未満児	13.92	60	1				

参 考 文 献

- i 保坂恵美・児嶋輝美・栗原泰子・関戸洋子、「就職試験をとおして見る求められる保育者像とそのあり方」 保母養成研究 第16号：1999
- ii 児嶋輝美他、「保育者養成におけるピアノレッスンの検討」 徳島文理大学研究紀要 第46号：1993
- iii 保坂恵美、「保育者養成におけるピアノ指導—応用力育成プログラムとその有効性」 日本保育学会第50回大会論文集：1997
- iv 保坂恵美、「保育者養成におけるピアノ指導のあり方—主体性を育てる教材選択—その視点と具体例」 東海女子短期大学紀要第22号：1996
- v Thomas H.Kean、「Why we need the Arts」 ACA BOOKS New York：1988

注

- 1) 上記ivの論文中「現代的感性を育てる」で述べた。

—児童教育学科 幼児教育—